

解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（8・上）

—— 金春海さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯／高 正子／伊地知紀子／鄭 雅英／皇甫佳英
高村竜平／村上尚子／福本 拓／高 誠晩

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (8) — Part I —
— An Interview with KIM Chunhae —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku, KOH Sungman

本稿は、在日の済州島出身者の方に、解放直後の生活体験を伺うインタビュー調査の第8回報告である。この調査の目的や方法などは、「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（1・上）」『大阪産業大学論集 人文科学編』第102号（2000年10月）に掲載しているので、ご参照いただきたい。

今回の記録は、1922年済州島左面中文里（現・済州特別自治道西帰浦市中文洞）のお生まれで、大阪市生野区在住の金春海さんのお話をまとめたものである。

インタビューは2008年7月13日、聖公会生野センターで、藤永壯・高正子・伊地知紀子・皇甫佳英・高村竜平・村上尚子・高誠晩の7名が聞き手となって実施した。その後、テープ起こしを高誠晩と皇甫が、朝鮮語から日本語への翻訳と編集を村上が、編集原稿の整理と校正を伊地知が、用語解説を高村が担当し、鄭雅英を加えた8名でこれを確認した。福本による参考地図の作成を経て、藤永が最終チェックをおこなった。

以下、凡例的事項を箇条書きにしておく。

(1) 本文中、文脈からの推測が難しく誤解が発生しそうな場合や、補助的な解説が必要な

場合は、[]で説明を挿入した。

- (2) とくに重要な歴史用語などには初出の際*を付し、本文の終わりに解説を載せた。第4～7回報告で解説した用語については、丸数字で報告番号を、アラビア数字で注番号を記し、かっこでくくった(例：(④-*13)は第4回報告の*13をあらわす)。また、2000～2001年の第1回から第3回の報告でとりあげた用語は「(再掲)」と記して解説した。
- (3) 朝鮮語で語られた言葉が文の場合は日本語に翻訳し、下線を施した。その際、日本語の単語が混じる場合はカタカナで表記し、[]で意味を補った。また日本語の文脈で朝鮮語が混じる場合は、一般的な単語や地名などは漢字やカタカナ、あるいは日本語の翻訳語で、特殊な単語についてはハングルで表記し、発音を日本語のルビで示した。
- (4) インタビューの際に生じたインタビュアー側の笑いや驚きなどの反応については、〈 〉で挿入した。
- (5) 話者が語った日本語・朝鮮語は、話者の発音どおりに表記することを基本としたため、いわゆる「標準語」とは異なる場合がある。

なお本稿は言うまでもなく、金春海さんの証言からとくに重要と思われる箇所を中心に抜粋、編集したものである。できるだけ客観性に配慮しつつ証言を再現しようと努めたが、編集の手が入っている以上、叙述に編者の主観が反映されている可能性は排除できない。本稿の内容に関する責任は全面的に編者にあることを、あらかじめおことわりしておく。

戦前、大阪で

《母・妹とともに大阪へ》

——何年生まれですか。

金：大正11 [1922] 年。6月10日。

——それは旧暦ですか？

金：旧。大正11年、私はもう86歳ですよ。86歳と言っても、みんな若いって。

私は、子どものころ日本に来ただけど、来る前に私はハングル全部習ってきました。

それで日本に来て暮らして。

——故郷はどちらですか？

金：西帰浦市中文洞。生まれ当時はね。

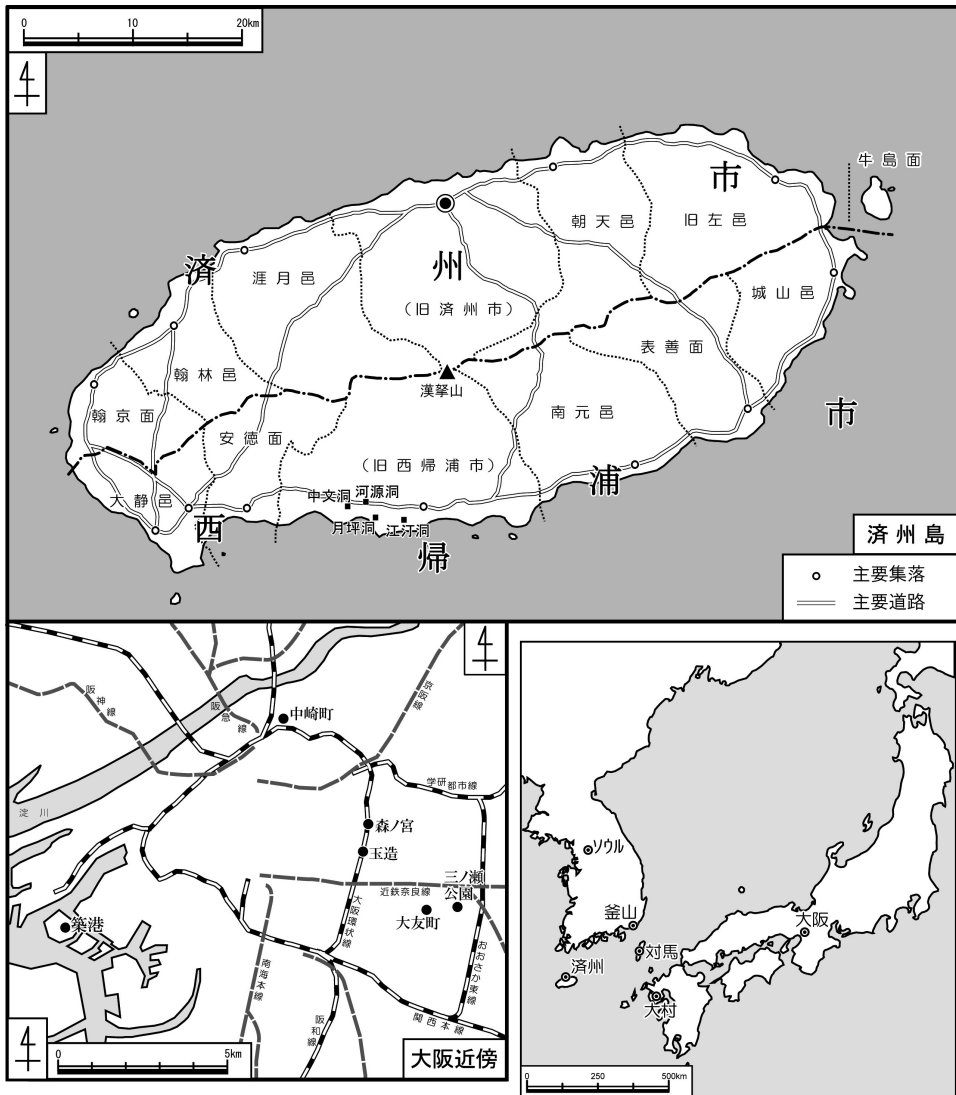


図1 本稿関係地図

——生まれたのは^{チェジュド}済州島で、日本に来る時は^{オモニ}お母さんと一緒に？

金：^{オモニ}お母さんと一緒に。[私が]「お母さん、私を連れて行かなければ、私は海にでも落ちて死んでしまうから」と。

——その時は^{アボジ}お父さんは？

金：[父が]亡くなって、3年[大祥が]済んでから^{*1}[母と私たちは日本に来た]。

——何歳の時に日本来ました？

金：7歳やな。お母さんもお父さんもお父さん^{ア ボ ジ}も日本来て住んで帰って。[父は大阪で] 肺病 [結核] なって [済州島に] 帰って亡くなった。昔は肺病治れへんかったもん。

——お父さん^{ア ボ ジ}は日本で何してたんですかね。

金：そんなん、そこまで知らんわ。

——兄弟います？

金：兄弟一人だけ、女一人だけ。お父さん^{ア ボ ジ}早よ亡くなったから。

——もう一人？ お姉ちゃん？

金：妹。

——何歳違うんです？

金：そうやな、7歳違う。

——じゃあ、妹さんが生まれたばかりのときに日本に来た？

金：そう。そう。

——お母さん^{オ モ ニ}と一緒に？ お母さん、赤ちゃんを、妹さんを抱いて、お母さん^{オ モ ニ}と3人で日本に来た？

金：お父さん^{ア ボ ジ}日本来て、[故郷に] 帰って死んだから。

《日本での仕事》

——何の会社に行ってはったんですか？

金：官庁みたいところで、こういうふうに鍵でこうしてある本、本。大きなホン[本]。こうやってつくってあって、ぱっと開く本、あるでしょ？ 官庁みたいところに。こう、押さえたら、ぱっと開く。

——それをつくる [仕事]？ ファイル？

金：こんな本ありますよ。あつたんですよ、昔は。あれ便利ええねん、ぱっとしてぱっと

して開いたら。そういう本をつけるの、つけるのを私が専門にやったんだけど、だいたい10年以上。

—どこでしたんです、それは？

金：大阪、玉造。

—玉造で？

金：住みながら、子どものころ。

—家もそこにあったんです？ 会社の名前は覚えてはります？

金：その人、自分の子どものように思ってくれた。子どもたちの服を買ったら、私の服も買ってくれて。

—その人も済州島チェジュドの人です？

金：違う。日本人。日本人の会社。

—名前覚えてます？ 工場の名前。

金：田中愛ゆう人や。みんないなくなって、いない。今度来て探してみたら、いない。

—田中、なんていう？

金：田中愛、사랑サラン [愛]。

—女性の方です、社長は？

金：男だよ。主人の名前が、「アイノスケ」。

—何でそこに働くことになったんです？

金：そうやねえ、学校行ってないから。12、3歳から働き始まって。19歳まで、20歳まで。

—12、3歳で、何でそこに？ 誰か紹介とか。

金：別にそういうことはないけど。

—日本の学校には通いましたか？

金：私？ 通ってない。勉強してない。でも漢字は分からんから、今でも字引見て勉強しますよ。

新婚生活

《結婚式を挙げに濟州島へ》

——ご結婚は20歳くらい？

金：19歳。12月31日。ほんで家帰ったら、「2年間住んできた」[と冗談を]言われたわ。
結婚は、月坪〔西帰浦市月坪洞〕の人のところに嫁いだ。

——月坪です？

金：^{ウォルピョン}月坪里。^{ハウォン}河源の近くの村に^{ウォルピョン}月坪いうところあります。日本でお見合いしてくにへ帰って結婚して、結婚してまた10日くらい住んで日本に来ました。

——^{チェジュド}濟州島で結婚式を挙げるために。

金：挙げるために。父の親戚の兄弟たちがいたから。故郷に来て、やってくれと。

——旦那さんの姓、名前は？

金：^{イソンオン}이성언。

——^{ハンチャ}漢字は？

金：^{イソンオン}이성언, ^{ソンオン}성언, ^{ソンオン}성언。いま忘れた。

——^{イガ}李家？

金：^{ソンオン}성언。簡単な字や。「口」に「王」書いて。

——聖書の「聖」違う？ ^{オモニ}お母さん [春海さん], ^{ナムピョン チョンジュイシ}旦那さんは全州李氏？

金：^{コブイシ}古阜李氏。古阜李氏だと偉そうに言いながら、舅が生きてたときは、後家の娘は承諾しないと。大昔ね。「後家さんの娘や、どこの家柄が分からんから要らん」言うて。ほんで「くに帰れ」言うて [夫になる人を濟州島に] 帰らせて。[結婚の] 1年前。旦那さん、私18歳の時。[濟州島に] 帰らせて、1年くらい手紙も何もなかったから、こら

あ結婚でもしてるな思ったら、1年後に[夫になる人から]手紙来て。ひと月に3枚も来て。「早よ[済州島に]連れてきて結婚してくれ」言うて。私は中文の金家だよ。金家。

—どうやって結婚したんです？ お見合いしたんです？

金：うん、お見合い。

—誰が紹介してくれました？

金：友達。

—男の友達？ 女の友達？

金：うちの知ってる人や。「小さいけど、ええ子おるから結婚し」言われて来た、言うて。

—ああ、^{ナムビョン}旦那さんの友達が？

金：うん、相手も知ってるし、うちらも知ってる。

—それは^{チュンムン}中文の人ですか？ 2人とも日本に行ってたんですね。^{オモニ}お母さんも旦那さんも。

金：そうそう。

—近所に住んでたんですか？

金：そう。旦那さんもな、親、向こう[済州島に]おるのに14歳の時に日本来たんや。

—一人で？

金：そう。兄貴らおったから。兄貴言うたら、姑[夫の兄の母親]は、息子3人産んだ。21歳に亡くなってしまった。だから姑[夫の母親]は2番目のヨメサン[嫁さん]。2番目の母親の、私が長男の[嫁]。

—旦那さんはどこに住んでたんですか？ お見合いするころ。

金：北区や。ほんで日曜日なったら遊びに来るねん。うちらそのときは森ノ宮住んでてん。森ノ宮駅の近くな。

—遊びに来てくれたんですか？ 旦那さんが森ノ宮まで。

金：日曜日になったら遊びに来るねん。来たら、うちのお母さんがご飯炊いて、食べて帰るし。「両方親おるから、くに帰って結婚しいや」言うて。[夫が] くに帰って1年したら手紙が来てん。「早よ連れて来て結婚させてくれ」言うて。で、慌てて服いっぱいつくって帰ったんや。

—お母さんが服つくって？

金：そう。韓服，韓服。母が全部つくってくれて。それにいところがつくってくれて。韓服が40着も。故郷に行く時。でも全部焼けてしまった(笑)。結婚して，故郷行って，また服全部持ってきて置いておいたら，また故郷に行くときに燃えてしまった。爆弾あたって。

—ああ，大阪[大空襲]^(⑦-＊6)で？

金：爆弾があたって。

—[春海さんの]^{オモニ}お母さんは縫物の仕事してはったんですね。

金：うちのお母さんは縫物専門。縫物，マトメ[仕上げの作業] やったり。マトメは希少な仕事やけど。男のトゥルマ[ギ]とか，ようやりますよ。^{チエジヨド}濟州島おる時は，^{チエジヨド}濟州島[で]もみな縫物。遠いところから[生地を]持って，トゥルマ[ギ]，[縫製]してもらいに。朝鮮の服は何でもやる。

—朝鮮市場のチマチョゴリ屋さんで仕事してたん？

金：自分で。人の家行かない。家で。みな持ってくるねん。その時は大瀬町，今は小路。

—^{ナムピョソ}旦那さん[になる人]は，日本でどういう仕事をされてましたか？

金：ガラス工場，働いて。それ専門や。とにかくガラスは専門。こういうふうな花入れるの専門。

《大阪での新婚生活》

金：結婚しても1週間に1度だけ来てやってくれと[田中愛が]言うから，行ってやったよ。とにかく仕事やってるから，あなた，やる仕事はもうたまってるし。結婚しに行ったのにな。[早よ来い，早よ来い]言われて(笑)。警察から電話呼び出されて。中文警察に

行ったら、[日本の会社の] 主人から電話が来ていて、「おい、早く来い」って。「あの、結婚しに来た人間に早く来いって話ありますか」って、もう大きな声で文句言っ、もう笑いながら。[それで日本に] また来た日から行って働いたよ。それで、自分のところでも工場つくって仕事することになったから、[田中愛で仕事が] できないと。もう、子どもを面倒見ずに放っておこうが、子ども産もうが、自分のところ [夫が独立して商売を始めたの] で、昔のアンブルしました。アンブル。

—アンブル？

金：アンブル。20グラム注射……。主人がそういうやつのシヨクニン [職人] なんです。こうやって吹きながら、火をぱーっと出して。ガラス、ガラス、ガラス。棒もこれくらい、すごく長いものなのだけど、こんな穴に、火が出れば吹きながらこうやって……。ずーっとだよ。こうしたら、こうして後ろを照らしてみたらもう一度、口焼いて、口焼いて。会社に、武田製薬、田辺製薬、みんな納めたです。

—^{ナムピョン}旦那さんが職人なのね。旦那さんがやってたんです？

金：そうじゃ。そこで金儲けて、お金をくにへ送って。親おったもんやから、主人のね。義理の両親がどちらも生きてた時だから。生きてた時だから、稼ぎながら、お金を送った。送って、畑とか田んぼとか、たくさん買った。毎月5～10万円ずつ故郷に送って、月坪の土地ほとんど全部買った。

—その時は工場どこにあったの？

金：梅田駅の手前の中崎町いうところ。

—工場の名前は何て言うてたんですか。

金：名前、そんなもん考えてない。木田、木田言うてたから。うっとこ [うちの工場] でつくってた専務さんは、[帰国事業^{(5)*19}の時に] また北朝鮮帰った。

うちら [大阪に] 住んでて [戦時中] くに帰ってもうた [帰ってしまった] から、北区にうちら家みな置いて帰ったでしょ。そこに大きなビル建てて [専務が] 住んでて。うち [が大阪に戻って] 来たら [代償に] 2千円くれた。ほんで、汚いなあ思うて。

[専務は] うちの家みんな売って、北朝鮮行って、みんな死んだ。

《済州島への疎開》

金：工場して金儲けたから、くに帰らな [と、夫が言うので、済州島に] 無理に行かされて、苦労させ [られ] て。

——疎開で済州島^{チェジュド}、行かれたんですね。

金：そのときは日本も恐ろしい時だったから、家の荷物全部まとめて、服という服全部まとめて、チッコウ、チッコウ [築港]。持って行って埋めて置いておいたんだ。その日、あの時分は、あの時分は明かりが見えたらだめ。飛行機、アメリカの飛行機が来て [爆弾を] 落とされる。次の日に行ってみたら、[家の] 主人もいないし家もないし、みんな死んでしまった。だから、日本では、夜になれば明かりをつけるなど。明かりをつけて、明かりが見えるだけで爆弾が落とされる、アメリカから。

——子ども連れて日本から最初に疎開で済州^{チェジュ}に帰ったとき、お母さん [春海さん] みたいに日本から村に帰った人、どれくらい居たんですか？

金：いっぱいおる。

——月坪^{ウォルピョン}から来た人も？

金：月坪^{ウォルピョン}はいない。

——疎開で帰ったとき、言葉とかどうでしたか？

金：言葉あんまりしゃべられへんかったのに、くに帰って覚えて、^{シオモエ}姑にもいじめられて、^{シヌイ}小姑にもいじめられて、黙って。近所のおばあちゃんら遊びに来たら、泣いてね。「あんた泣いて姑とどないして住むつもりなの」言うたら、「どうもないです」言うた。怒っても、あくる日お酒1本持って行って、「お母さん、昨日怒らしてごめんなさい」言う。ほんなら「ええよ」。まあ、そんなんして住んできたんです。

——しばらくしたら解放^{ヘバン}なったじゃないですか。その時のことって覚えてますか？

金：解放^{ヘバン}……、くに帰って……、解放^{ヘバン}……。もう本当に苦労して生きてきたから。解放^{ヘバン}になったから日本出て。解放^{ヘバン}になったから日本出てきたでしょ。故郷に行って、4・3事件を経て。

—^{ヘバン}解放になる前は、村に日本人は住んでました？

金：うちの故郷は日本人いない。昔、日本人たちがわが^{ウリナラ}国30年間収奪しただろ？ そのときは警察官、学校の先生、みんな日本語、日本……。私も小学校2年までは通った。それで全部日本の文字習った。タカイヤマ、ヒクイオカとかいうの、サクラサクラとかいうの（笑）、小学校2学年まで習った。そのときは全部日本、日本の法、警察も何も。

—^{オモニ}お母さん[春海さん]は、^{ヘバン}解放になったというのはどうやって分かったんですか？

金：^{ヘバン}解放なったの、日本が戦争して、手挙げた[降服した]から。みんな知ってるよ。何、世間……、みんな……。

—知らせが出てきたんですかね。その時は、村はどんな感じでしたか？

金：私、故郷に行って、1カ月して解放になった。ソカイ[疎開]で故郷に行って、1カ月して解放なったから、「あ、日本、手挙げた」という噂が出た。それに日本にいるときにも、「天皇陛下が出て、アメリカに謝った」と言う話、全部聞いた。その時に私故郷に行った。そうして、私、故郷に行って、1カ月して、ああ、手挙げた……。そしたら、テレビ見たら、北朝鮮の金日成、ソ連にいたのが、北朝鮮に来て大統領やった¹⁾。

—日帝時代のとき、村で区長した人たちや、何か供出しろとって人びとをひどく苦しめた人たちや、解放になって、村の人びとにいじめられたことはありませんでした？
そういう話は月坪ではありませんでした？

金：うん。

4・3 事件の体験

《婦人会長として》

金：25歳、24歳のとき子供二人連れて、くに帰って、あくる年から婦人会長なって、[日本に]来るまでやったんですねん。9年間、^{チェジュド}済州島で。農業やりながら……。

1) この当時、月坪里にテレビがあったとは考えられないので、後にテレビを見た時のこととお話されたものであると考えられる。

——何で選ばれたんですか？

金：カナでもちょっと分かるから違う？ ハングル……。

——月坪里で住まわれたんですか、それとも中文で？

金：月坪里。月坪里に住んでた時。

——旦那さんの家に？

——米つくってたんです？

金：うちとこ [月坪] はね、濟州島の中でも一番米ができるとこなんです*2。

米いっぱい、つくって。米して [米つくって] 入口いっぱい積んでも、誰も持っていきへん。晩なったら、姑、見るか思って。姑、隣住んでるから。姑、寝てもうたら、隣のはあちゃん遊びに来たら、みな [米を] やるねん。

——田んぼは [西帰浦市] ^{カンチョン}江汀の方に持ってたんですか？

金：^{ウォルピョン}月坪にいっぱいある。海行くところ、いっぱいある。うちら村の近く。ほんで、2、3 [年] そこ行って4、5年経ったかな？ 経ってたから動乱おきてね。4・3事件起きて。罪ない人たち、みんな殺してしまっ。

生活してたら、そんな世の中になって。ちょっと濟州島が静かになるかと思ったら、以北から、以北から、あんな服、青々しい服、あんな服来て、若いやつらがたくさん来て。男は手当たりしだいみんな殺してしまった。うちの村の子どもが畑走ってんのに、走ってんのに鉄砲打って殺してしもうて。北朝鮮から来た人は、応援隊、応援隊。

——応援隊？

金：はい、その青い服着た人たち。

——応援警察？ そういう言葉はないですか？

金：応援隊と。警察ではありません。警察であれば、わが国の警察。

——西北青年団*3という……。

金：西北青年。あ、その言葉もあった。朝鮮語では、北朝鮮から来た人を見て応援隊と言った。なんで来たのか聞いたら、以北から濟州島へ行って全員の男を、全員殺して来いと、命令を受けて下りてきたと。アイゴ、恐ろしい。

—危険な目に遭いませんでした？

金：ううん、大丈夫。遭うてない。村でやるのを見ただけ、恐ろしくて外にも出られなかった。夜も恐いし、昼も恐いし。だから、いつか日本に行こう、そのことだけ考えて……。

—その時、婦人会の会長さんしていたら、呼び出されたりしなかったですか。

金：呼び出されはしないけど、うちら大きく家建てて住んだから。3人、そうしたら昼には3人ずつ支署から来るでしょう。支署から来たら、私が昼食を用意して、食べさせて帰らせた。「今日は何もありません」と言って*4。

—それは警察に対して、軍人？

金：警官，警官たち。^{スンギョンドル} 巡査たち。

—何人くらい？

金：3人くらい。毎日その何人、部落回ってる。事件あるか、思うてな。

—その人らに、ご飯つくってはってん？

金：ご飯食べさして帰らな、そのまま帰らされへん。ほんで、3年、私が会長ずっとしたから、「ありがたい」と言って、くにで、月坪でこれくらいの碑石建ててくれた²⁾。私の名前出して。軍人に行って死んだ人の碑石を立てて、その下に私の名前を書いた。

—今もありますか、その碑石は？

金：あると思います。月坪に入るところ。村に入るところに。

—いつごろできた碑です、それは？ いつごろ、何年前くらい？

金：さあ、いつごろかな。32、3歳の時やな。

—そしたら、旦那さんが区長されてた？

金：夫は区長やらなかった。村の人、村の年長の人が区長やった時に。

2) 現在も西帰浦市月坪洞に、道路敷設や電気架設に対する在日月坪里出身者による寄贈を記念する石碑とならんで、檀紀4288(1955)年建立とする「忠魂碑」がある。正面には3名の朝鮮戦争戦死者の名前が正面に刻まれ、側面に「賛助者」として6名の人名とともに金春海さんの名前が記されている(2009年9月17日現地確認、図2・3参照)。



図2 西帰浦市月坪洞の忠魂碑

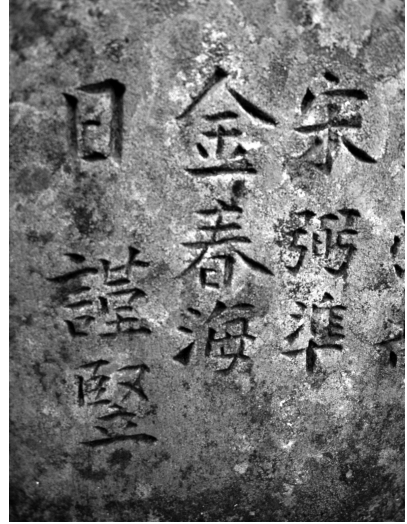


図3 図2の側面拡大写真

—ああ、家が大きいから、そこで……。

金：はい、むかしの年長の方たちの家でやるといっても、小さいし暗いので、「あなた、申し訳ないが、客を接待してほしい」と言って。だから「大変苦勞してくれた」と……。「そんなものは必要ない」と言っても、後で行ってみたら、軍人に行つて死んだ人の名前書いて、私の名前書いて。

《山の人》

—^サ4・^{サムサコン}3事件の時に、ご家族で何か被害に遭われたとか。

金：家族はないね、ないんです。家族はないけど。月坪で生活しながら、私も夜は、大きな牛2頭いたから、出て下に連れて行って、隠しておいてから寝るんです。山から来て全部さらっていってしまうから。私たちが村の親戚が宴会しようと、米5石束ねて置いておいたら、来て全部取って行ってしまった。山側で。同じ濟州島の人なのにそうやって。山側も恐いし、山側が恐ろしい。夜になったら下りてきてもう盗っていってしまう。法も恐いし。夫の姉の旦那の弟も捕まえて、上川里の人だけど。殺そうと言って。その人はどこか、巡査の弟なんだけど、山から来て捕まえていって殺してしまつた。山側。

—山から来た人が殺したんですか？

金：はい。山から来て、捕まえて行って殺した。巡査の弟だといつて。山、そのときは山

も恐いし、法も恐いし、「法」*⁵、言うたら警察。山も恐いし、法も恐い。村の人たちも何人か山に入って。ほんの、済州島の中では数人。朝天の人はずっと多く山に入った。山に行って、暴徒として。それで夜になれば下りてきて米も盗っていってしまうし、牛もさらって行って。もう、そういうふうにやった。そんな恐ろしい時代があった。

—— [済州4・3] 平和公園*⁶ [の位牌] に [犠牲者として近親者の] 名前ありますね。

金：甥っこ。夫の又従兄の息子と。それと従弟と。それから夫の従兄の息子と。親戚3人。

—— 3人の名前。

金：そう、月坪里はその時は6人、9人だったか、やられて。

——それが先ほどおっしゃってた山の人、^{サンサラム}山の人から殺された人。

金：えっと……それは山の人じゃない、[警察が] 捕まえて殺したの。山側についたと言っ
て。山側につくなと言ったのに、ついたと。山……。来て、捕まえて行って殺してしまっ
た。山側についたと言って。ついてはいけないと。また山側に、夫の従兄は山側についた。
その奥さんも私から見て、従妹なんだけど。「米1升だけ寄付してください」と。私は、「そ
れはできない。そういうところに寄付はできない。ない人、お腹がすいた人には寄付し
てやっても、できない」。

——山側から来ても寄付できないと。

金：そう、そう。その旦那が山側、運動したから。でも米1升だけでも寄付すれば名前書



図4 済州4・3 平和記念公園の位牌奉安所

くでしょ。名前書けば、[警察が] 捕まえて殺してしまうし*7。

——米を出したということで名前が？

金：名前載せよう思うて寄付してくれ、言うてんねん。それは絶対、それはできない。お前はきついなんて怒られたけど、そんな関係ない。私はもう日本に行く人間だから、そういうのは必要ない。やらなければ終わりだ。

——ああ、そういうふうには言わったんですか。その時日本行こうと思って、気持ちは。

金：[済州に] 行ったら、また日本来よう思って。そればかり考えとった。

——この3人の人が殺される前に、旦那さんが日本に来たんですか？

金：そうそう。前に来さしてもうたんや。ええ……。法で若者たちを手当たり次第に殺していくから、もうどうしようもないと、夫を日本にまずやってしまった。日本に行けと。ここに住んでいたら死んでしまうから、日本行けと、私の母もここに [日本に] 住んでいたから。日本にやって、まずやっておいて、5、6年してから私が出てきた。

——旦那さん、日本に逃げたのは何歳だったんです？ その4・3の時。

金：何歳やったかな。

——旦那さんはお母さん^{オモニ} [春海さん] と、歳どのくらい違うんですか？ いくつ上？

金：3つ上。

——お母さん^{オモニ} [春海さん] は何歳の時、日本に行ったんですか。

金：また日本に？ 35歳。そやから向こうで12年以上住んだな。[夫と] 7年間離れたから。で、[夫は] 日本来て酒ばかり飲んで。肝硬変なって死んでしもて。

——何歳で亡くなったんです？

金：58歳。若い時。

《南朝鮮単独選挙のころ》

——4・3事件の時の話、もうちょっと聞きたいんですけど。解放^{ハバン}になって、その後少し

経って、選挙ありませんでした？

金：ああ、それもあった。それもうち〔婦人会の〕^{フエジヤン}会長やから、村の住民たち連れて河源まで上って行って「投票しなさい」と言った。

——^{ハウオン}河源。

金：自分が好きな人に投票しなさいと。

——投票しました？ おばあさん〔春海さん〕も投票しました？

金：はい。

——みんな投票しに行きました？ 投票嫌がる人いませんでしたか？

金：いるよ。

——どうするんですか？

金：嫌がる人は、北朝鮮側だよ。嫌と言う人、いないけどな。

——投票に行かずに山に上がる人はいましたか？

金：山に上がる人は相手せえへん〔相手にしない〕。アイグ、山側のそちらさんは故郷の人でもどれほど怖いか、法よりもっと怖い。夜に攻撃してきて、ただもう、米を盗って行って。私もミシンしたから、ミシンして服も作ってやるし、だからミシンつかんで、カリ〔麦殻を積んだもの〕の中に隠した。夜に盗んでいくかと思って。カリの下に……。その中に隠した。ミシンとられるか思って。

——山から下りてきて、ミシンを持っていくかと思って。

金：暴徒、^{ウリマル}朝鮮語で暴徒と言った。暴徒の奴らが下りてきて……。

——選挙の時に、警察はどうしてました？

金：せやから、警察、来て、村に……。それ調べに毎日来るわけよ。ほんでしまいに分かったら捕まえて行って、うちの村で〔4・3平和公園の位牌に〕名前書かれている甥たちも、松の木の畑で立たせて撃ってしまったから。全部で10人立たせて。それも法が、巡査たち。

——どこで？ 畑ですか？

金：松の木の畑で立たせて、みんな殺すと言って。

——どの村の松の畑？

金：その月坪の中の松の畑。

——そこで？

金：そう言っても、月坪の中とか、端ではないと言って。どこか遠いところへ連れて行って、山に行って撃ったと。

——じゃあ、その遺体はどうしたんです？

金：遺体は家族持ってきて仕方なく埋めたり、[濟州]市で、私の友達も学校の先生なんだけど、夜にちょっと寝ていたら、その下着姿のまま、そのまま捕まえられてどこに行ったのか分からない。あとでみたら、どこか山に行って、石、石あるでしょ？石で押さえつけて殺してしまったと。友達が働いているときにやったんだけど、働いていた友達ら、学校の先生として通っていた、学校の先生。警察官らが山の奴らを、山の奴ら……法でやるのはどこか松の木の畑行って殺して、死体持って行けというけど、山の奴らは連れて行って殺してしまえば、どこいってどうしたのか、埋めたのか分からない。どこか行って、その前に落として殺してしまった。石で倒して殺してしまった。それほど恐ろしい時代……。

——^{サチョンシアジュバン}夫の従兄が、山に行ったんですか。

金：山に行っていない。行ってないけど運動したから。

——どんな運動したんです？

金：みんな自分の味方しい、言うて。それも山側の奴ら、^{サンチョクコットゥル}悪いのにあんな運動すんねんな。あんな運動する人がおるねん。村に2、3人。

——「名前を書いて賛成してください」とか？

金：「何か寄付してくれ」言うて。うちも米1升だけな、寄付してくれ言うたけど、してない。

——その人が殺されたのは、だいぶ後ですか？

金：そうやな。それから1，2カ月後に連れて行った言われた。

——冬でした？ その人たち殺されたの。寒い時？ 暑い時？

金：冬あたり違うか。[済州] 市に，名前書いて貼ってるやろ。あの人らみな連れて行って殺された。みんな立たして鉄砲撃って殺した。

（以下，次号）

* 本研究は科学研究費補助金（課題番号21330119）の助成を受けたものである。

【用語解説】

* 1 3年済んでから

かつての済州島の葬礼では，一周忌を「小祥」，三回忌を「大祥」とよび，葬儀と同様弔問客が訪れ大々的に祭祀をおこなっていた。「3年済んでから」という説明は，父の「大祥」を執り行ってから渡日した，という意味である。

* 2 済州島の稲作

済州島の土壌は火山灰土が中心であるため保水力に乏しく，ほとんどの地域では水田耕作がむずかしい。そのため稲作の中心は陸稲であったが，月坪やその周辺の江汀・法還・大浦・猯来など南海岸では水田による稲作が行われてきた。金昌民による月坪里の民族誌によれば，かつて水田は畑の約3倍の価格がついており，月坪も豊かな村とみとめられていたが，70年代以降の換金作物の導入にしたがって手間のかかる水田耕作は衰退し，ミカンや花卉の栽培がこの地域の農業の中心となったとされている（金昌民『換金作物と済州農民文化』ソウル，集文堂，1995年，41頁）

* 3 西北青年団（再掲，加筆）

朝鮮北部地域の社会主義化・親日派処罰政策の進展にともない，南に逃れてきた右翼青年の反共団体。正式には「西北青年会」だが，済州島では「西北青年団」と呼ぶのが一般的である。略称は「西青」^{ソチョクソン}。1946年11月，朝鮮北部出身者の地域別右翼青年団体を統合して結成。翌47年9月に結成された大同青年団への参加をめぐる分裂，残留派は同年9月末に再建大会を開いたが，最終的には48年12月，李承晩大統領の指示に従い，大韓青年団の結成に参加して解散した。済州島には1947年の3・1節発砲事件後に，警察補助機構として投入されはじめたが，西青のテロ行為は島民の感情を刺激し，4・3事件勃発の要因の一つになったと指摘されている。4・3事件発生後，蜂起鎮圧のために西青は追加派遣されたが，この段階では西青の団員としてだけでなく，警察や軍の構成員として赴いた者も多かった。

とくに月坪里を管轄する警察の中文支署は，1948年11月5日に武装隊によって攻撃されたが，その報復として行われた虐殺の過程では西北青年団が中心となった。中文里にいた団員の一部は警官となり，そのほかにも西青と陸地出身の軍人による特別中隊が中文支署にテントを張って駐屯したという（「済民日報」四・三取材班編〔金重明・文純実訳〕『済州島四・三事件』第4巻，

新幹社, 210~223頁)。

* 4 警官による巡回

金昌民の民族誌においても、「応援隊」は豚や鶏をつぶして接待することを要求し、小さなことでも難癖をつけて里長や班長を殴りつけたため、里長たちは一日でも早くやめようとしていた、とされている(金昌民, 前掲書, 64頁)

* 5 「法」

ここでは、警察を「法」と呼び、武装隊をさす「山」と対比している。あるインタビューでも、やはり討伐隊を「法」とよんで、以下のように体験者が証言している。「『法』がここに埋めろと指示するから、穴をほって〔遺体を〕持ってきてほんほん放り込んだ。私たちが見られないようにした」(金東満製作ドキュメンタリービデオ「顕義合葬墓」2009年より)。また、武装隊を「上」、討伐隊を「下」と呼んでいる証言もある(前掲『済州島四・三事件』第4巻, 32頁)。

* 6 済州4・3平和記念公園

済州4・3事件に対する補償事業の一環として、犠牲者の慰霊、資料保存、教育・啓蒙などを目的に造成された公園。済州市奉蓋洞に位置し、敷地面積は220,394平方キロメートルに及ぶ。1980年代末より展開された4・3真相糾明運動では、慰霊事業の推進は真相糾明と並ぶ重要な課題の一つであった。2000年1月に公布された「済州4・3真相糾明および犠牲者名誉回復に関する特別法」では、その第8条で慰霊墓域の造成、慰霊塔建立、資料館建立、慰霊公園造成などへの政府の財政支援を認めており、同年10月には4・3慰霊公園造成基本計画が定まった。こうして2002年3月より公園の造成が始まり、まず慰霊祭壇、位牌奉安所、慰霊塔などが建設され、毎年4月3日の慰霊祭も同公園で举行されることになった。2008年3月には4・3平和記念館が開館し、現在、工事計画の第2段階までが終了した状況である。

* 7 名前書けば……

1948年5月10日の南朝鮮での選挙(北済州郡の2選挙区では不成立であったが)を通じて制憲国会がひらかれ、南朝鮮のみでの政府樹立が確実となる中、北朝鮮でも政府樹立に向けての選挙実施が決定された。新たな政府は統一政府でなければならないという立場から、この選挙は全朝鮮で行うものとされ、南朝鮮で秘密裏に実施された選挙では、南朝鮮人民代表者大会(8月21~26日に海州で開催)に出席する1,080名を選出した。済州島での地下選挙は、主として白紙をまわして判を捺すという方法によっており、投票とは理解せず、ただ山側を支持する署名に参加したという認識をもっているものが大半であり、また同じ村の住民に頼まれれば断りきれない雰囲気もあったという(前掲『済州島四・三事件』第3巻, 200~204頁)。月坪里では、鎮圧部隊が作戦中に入手した書類の中に含まれていた署名名簿を根拠として住民を公開処刑した例もあり、そのうち8名は陰暦の1948年12月6日(陽暦1949年1月4日)に中文の滝で一度に処刑された(金昌民, 前掲書, 64頁)。金春海さんの発言は、このような諸事件を経験したことによる「名前を書く」ことへの恐れを表したものであると考えられる。